コーン状のトップライトから柔らかな光が降り注ぐ4層吹き抜けのエントランスホール。純白の天井は不燃軽量天井材「エアリライト」によって一新された

世界に誇る恐竜研究の拠点施設を体験可能型にフルモデルチェンジ

福井県では1989年から取り組んでいる調査の結果、多くの恐竜化石が発見された。これらの貴重な資源を学術研究や生涯教育、観光振興などに活用することを目的に、2000年に福井県立恐竜博物館は開館した。開館以来、20年以上が経過し、国の恐竜研究の拠点となる一方で、大人から子どもまで幅広い年齢層に支持されてきた。来館者数は増加の一途をたどり、北陸新幹線開通により、さらなる増加が予想される。また、夏休みの期間に来場者が極端に集中していたため、従来展示に加え、通年楽しめる新たな体験の提供が求められた。そこで、博物館を機能強化するための増改築が計画された。計画ではエントランスやロビーなどの拡張に加え、レストランやミュージアムショップも改装。本館展示を強化するとともに、新館を増設し、2層吹き抜けの特別展示室や「見える収蔵庫」、実際の研究者の視点で学べる化石研究体験室などを整備し、2023年7月にリニューアルオープン。カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館や中国の自貢（じこう）恐竜博物館と並ぶ、世界三大恐竜博物館の一つとして、恐竜資源を未来に継承していく。建築としては、故黒川紀章氏の建築哲学の継承をめざしており、既存博物館との調和と発展、周辺環境との共生を図っている。

本館の常設展示室は、「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の3つのゾーンから構成されており、約4,500m²という広大な展示室には、50体もの恐竜骨格をはじめとして千数百もの標本の数々、大型復元ジオラマや映像などが展示されている。なお、4層吹き抜けのエントランスホール天井は、火災にも地震にも強い不燃軽量天井材「エアリライト」によって一新されている。

今回の増改築により、子どもから大人まで楽しんで学習でき、また研究者も満足できる学術的に裏付けされたミュージアムとなることが期待されている。

◀（上）動く恐竜など、展示が一新された本館1階の常設展示室
（下）新館の吹き抜け空間に浮かび上がる、
福井で発見された恐竜と鳥類が配された全長13mのシンボルモニュメント

©福井県立恐竜博物館

福井県立恐竜博物館

■増改築工事
所　　在　　地／福井県勝山市村岡町寺尾
事　　業　　主／福井県
設 計 ・ 監 理／株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
展　示　施　工／株式会社乃村工藝社（本館）
株式会社丹青社（新館）
本館展示リニューアル設計・施工／株式会社乃村工藝社
リニューアルオープン／2023年7月
延　床　面　積／23,600m²（本館16,400m²、新館7,200m²）

拡張されたエントランスロビーを柔らかな光で
照らしているSmartArchiのソフトライト

本館とつながる新館「見える収蔵庫」に
展示された恐竜を照らすスポットライト

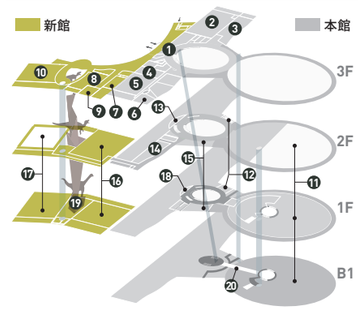
高輝度プロジェクターで3面にCG恐竜映像が上映
されている、高さ約9m×幅約16mの特別展示室

可愛い恐竜のグラフィックに包まれ
雲形の間接照明も採用されたキッズルーム

恐竜の骨格標本が展示されているレストラン

大型円形建築化照明が配された
ミュージアムショップ

福井県立恐竜博物館



❶ エントランス
❷ レストラン　❸ ミュージアムショップ
❹ ガイダンスルーム　❺ 講堂
❻ キッズルーム　❼ 研修室
❽ 化石研究体験室　❾ 実習室
❿ 多目的ホール
⓫ 常設展示室　⓬ 化石クリーニング室
⓭ ビデオライブラリー
⓮ ダイノライブラリー　⓯ ダイノラボ
⓰ 収蔵庫　⓱ 特別展示室
⓲ ダイノギャラリー　⓳ 新館ホール
⓴ ダイノストリート

主な納入設備

- エアリライト
- SmartArchi
- LEDダウンライト
- LEDベースライト
- LEDスポットライト
- LEDペンダント
- LED建築化照明
- プロジェクター